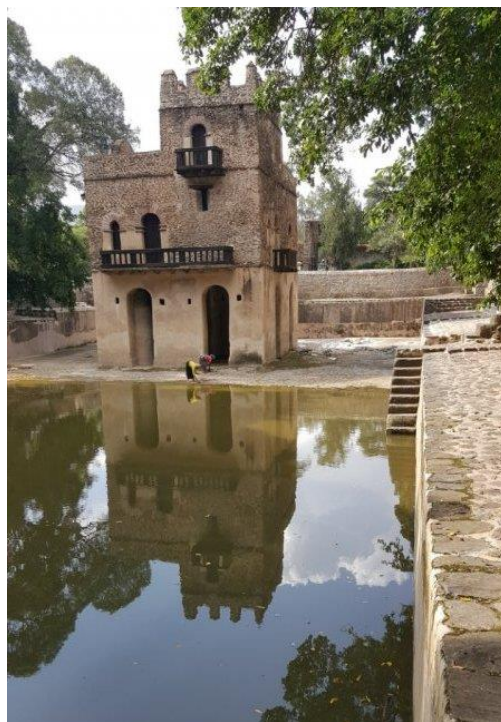


水源禪師法話集 114

(2019 年 5 月 4 日 山梨合宿 8 日目)

2019 年 7 月 13 日

一乗禅の会



ゴンダールの教会 エチオピア

水源禪師法話

2

水源禪師法話

お釈迦様は全ての衆生の先生である

それでは、昨日までの金剛般若波羅蜜多經をお伝えしましたが、そして皆さんと一緒に色々お話ししましたけど、何か昨日までの所で疑問がありますか？昨日までの話の中でふと何か疑問が湧いたら。無ければそのままお話し続行します。

昨日、願解如来真実義という話から始まって、如来。如来真実義。この如来という事がいつも心に引っかかっていたのですけどね。如来。真如。如来。それでおしまい。で、ナモータッサ。タッサ。タサッタ。タサガタ。タサ。タサガタというのはブッダの事。完全に検証されたということ。願解如来真実義。だからお釈迦様のことを如来。ブッダ。サンマーサンブッダッサは私たちに懇切丁寧に教えて下さる、全てを教えて下さる、人間と天界の先生なのです。人間と天界の先生。

ですから、お釈迦様は天界にも生まれ、お釈迦様はブラフマーの世界にも生まれ、という、人間だけの先生ではなかったのですね。まあ、ありとあらゆる衆生の先生ですけど、どうしても南伝の方では人間以上、人間と天界の先生ということで。人間の下は結局、餓鬼とか、ずーっと、暗き世の方はそうじゃない、と。

ただ大乘では地藏菩薩様が地獄に行って、空っぽにするまでは絶対に仏陀にならないという、凄い 凄い菩薩様で。それを目指して人間の体でお地藏様のアバターになる、と。で、なったという方が九の華の山、九華山と。非常に有名です。だからお釈迦様の場合は結局、お釈迦様の、向かって座っていたら、右に地藏様、左に観音様、必ず。ということは一体化になっているわけですね。

だからお釈迦様が今度、ミロクブッダが出る間は、全て地藏菩薩様が決定するわけです。「この世であんた何したから、今度あなたはあそこに行きなさい」と、こう。という弥勒菩薩が出るまで。で、問題は弥勒仏の出た後の事ですけど、まだ昨日の話まで行かないのだけ。

カルパ・劫の問題

結局、やっぱりカルパの問題になってくるのですね。劫の問題が入ってきます。えっとね、ここに私書いておいたかな？ちょっと見当たらない。まあ頭の中にあるから、ちょっと言いますけど。サラカルパ、マンダカルパ、バラカルパ、サラナンダカルパ、ブッダカルパの後、ノーブッダ。

それが弥勒菩薩の後にこの時空に入っていくような所を読んだから、結局、普通は最後のこの小さい劫の中で、カクサンダー、コーナマガ、カシャパ、ゴータマブッダ。で、弥勒仏。その後、強烈に長い間ブッダが出ないで、また繰り返す。

劫の場合はね、また他の大きい劫の場合は結局、発生する時空、物体が発生する、銀河とか色々なものが出てくるでしょう？まあ宇宙的にもそうだけれど。そして、それが安定する時空のカルパ。非常に長い時空。で、それが宇宙もついには消え去るという。物理学ではね。そのマテリアルがだんだんラディエーションで段々、段々なくなるのが大体、400 億年とか、40billion year とか。それははっきりわからないのです。前の学説だから。というのはキセノン 124 のアイソトープは 26×100 兆年の時空帯だから。

時空自体も私達はハッキリ分らないし。何故これが非常に重要かとなれば、その時空と時空の間がめちゃくちゃに長い時空で、その後、デストラクションが始まった後、破壊が始まって最後、今度、何も無い、何も無い劫が発生するわけです。大きい劫。で、その後、また新しくやるから繰り返しになっているから、そのジャータカ物語を見れば。

私達のこの世界は、結局最後のこっちのほうで、全宇宙を粉々にして、砂粒みたいになって、それ一つが銀河の宇宙があるという事だから。という事で。

その砂粒を全部数えても、まだ数えられるという事で。その、無限と整数の関係は未だに数学の最大の謎になっているわけです。それは謎だと思います。というのは、この安慧菩薩様の経典を読んだ場合には、無限の事が明快に書かれているから、一念の中に無限があり、で、その、一念が重なって無限になっているし。ハ、ハ、ハ、ハ、(笑)。

「オーン」

そこと心の関係ですね。というのが心で分かる。一体心は何か？という事になってきます。だから仏が出る以外は、私たちは一体何が何だか分からないと思う。で、やっぱり私達は、私は、インドという、まあ人類の最高点に立つというプライドがある、その、インドの国。やっぱりその通りだと思う。と思います。

何故かと言ったらね、インドだけが延々と、聖に対してお布施するわけです。食料とか。私もね、インドに行くのですよ。最初若いときインドに行った。インドに行って、弥勒菩薩の前で座っていたのですよ、ずーっと。それで私は知らずにね「オーン」ばかり唱えていたのです。あの、ブラーミンの修行法は「オーン」から入って行くのです。「オーン」ってその、ラマヤーナの、もう気が遠くなる時代の人間の人類史では、やっぱり「オーン」って、同じブラーミンのやり方です。

王様の王子様は必ずブラーミンの所に行って勉強するわけです。その最初の教科がオーンから発生させる事をやるわけです。なぜかと言ったら、この舌と音と骨と、この3つが合わさった時に非常に神秘的な力を出して、人間として人間がもっと開発されるという手法があるわけですね。

この手法は大乘ではただ「オーンなんとか」って。そうじゃないです。出し方があるわけです。南伝はこれを持っているわけです。その、これも極秘で、本当に近い比丘さんから、やっぱり比丘でも40年やって、特別な行を受けた人が秘密をチョコチョコと話してくれるけど。南伝でも比丘同士教えない、その声の出し方。で、その音だけで全ての病気を治してしまう。(DNAと音楽の旋律が最も近いバイブレーションと言われています。)だから今なんか、あるでしょう。バイブレーションで病気を全部治すとか。光もバイブレーションですからね。まあ宇宙人はこれ持っているらしい。で、一番私が興味があったのは、サイババさんの所に行った時に、やっぱり色の使い方で全ての病気を治すという経典を貰ったんだけど、私の家に届かなかった(笑)。途中でどっかに行ったのかもしれない(笑)。

それはね、どうせそれをやったって私はこの修行の方に入るから、一般のほうに興味を持ったけど、やっぱり要は心で。どんな病気になっても良い所に生まれて、仏教を勉強できれば最高の事だから。

まあ、という事がわかって。まあ天界のあれで。で、まあ結局、旅ね。さっき言ったこの経典に戻りますけど。まあ壮大なストーリーになるけどこの私のちっちゃい世界では。結局、私がいつもあなた方が瞑想するでしょう？日本で。その時間ね。東京とか大阪とか四国。その時、ビルカバンバで必ずするのですよ。ビルカバンバか、または私のクティ、トロントで。で、一緒にやる事によって、天界が不思議なビジョンを観せるわけですよ。

で、「アフガニスタンに來い」と言われて。で、まあ女神様ですね、ちょうど。もう一つは、エチオピアの女神が私を呼ぶわけですね。サーッと。すぐ分けるわけ、それが。どこか、エチオピアという事が。で、情景を全部教えてくれる。で、木を観せるわけです。ここを見なさい、と。で、昨日、木を見る所でストップだったでしょ、昨日。

まあ、アフガニスタンに行って最高の時は、観音様をお連れしてくる事ですね。アバター。地中の中から。その時に、そのおかげで教えてもらったことが、結局、大日如来

様と毘盧遮那仏。盧遮那仏とお釈迦様の関係。毘盧遮那、盧舎那、お釈迦様の関係が明快になったわけです。

人類最大の病、「我」と「創造主」(パラアッタというクリエイター)

お釈迦様が言う事は、つまり人間は、アッタ。絶対に滅びないというアタ、何処だったかな？これが非常に危険なわけなのです。実は、非常に危険な所で。これが今、現代、私達の最大の病です。

パラアッタ。あの、アタがパラアッタという、つまり、まあインドとか、インドの言葉は簡単な言葉でもうパーンと言ってしまうから。結局、我ですね。アタ。これが嵩じて、もう究極のパラアッタというクリエイターが出来てくるわけ。創造主。一神教。だから一神教をそのままその、クリエイターを信じていけば、完全に無我と反対の方向に行ってしまう。

これが私たちの全世界の最大の悩み、今。これでは願解如来真実義は絶対に見えない。この手法では。結局、パオ・サヤドーは明快に経典からこの一節を取って、説かれているけど、今までパオに行った方が、誰も説明しないという事も、非常に不可思議なこと。ただそこに行って帰ってきたのか、どういことなのか分からないけど。まあ、行を終えたという方もおられるから。

当然、この一番最大のアタ、アナッタってしょっちゅう言ったでしょう？アナッタ、ドゥッカ、アニッチャ。この3つ。で、そのアタの恐ろしさ。無我。何故かと言ったら、結局、パラアッタという事になれば「絶対的に存在する私」ということで、これがクリエイターになるわけですね。

お釈迦様あつての阿弥陀様

結局、毘盧遮那仏が結局クリエイターになっている事になります。それがしっかり分からなければ。で、私がカブールに行って、明快に教えてもらったことは、実は、法身、報身、応身は一体であって、その化身としてお釈迦様が、毘盧遮那仏の姿をしているから、全ての仏は一体化していますから無我になります。

だから、お釈迦様を外して、結局、阿弥陀様もお釈迦様があつての阿弥陀様、ということは、カクサンダー、コーナマガ、カシャパ、ゴータマブツダ。という配列で必ず、4つの方向でバガンのお寺は出来ています。また、南伝のほうも、入り方は西から入っていきます。カクサンダー、必ず西から入って、グルッと回って西から出ていきます。賢劫第一仏。

で、大乘では、過去千仏、賢劫千仏、未来千仏と、密教では言っているでしょう？ですから、この点を密教の人がしっかり見なければ、その、経典だけやれば頭が狂いま

す。ですから虚空蔵菩薩の先に何が見えますかと言ったら、ダラダラダラダラダラダラダラダラと。「あんた、それ見たんですか？」って言いましたら、怒りはじめて(笑)。

お釈迦様は「本を書くな」と言われた

つまりこれは、裏を返せば、本に頼って、本がクリエイターになるという。聖書も一緒です。聖書も結局神の言葉だから絶対に。ところが、それを書いたのは人間なわけです。で、聖書も結局、エボナイト、マルシナイト、ノースグット、プロトオーソドックス、オーソドックス、カトリズム、プロテスタント、変わっていくでしょう、どんどん。

あれは人間が書いたもの。神の言葉として。だから言葉自体も結局、イスラムも、最初のほうは6つの言葉で書かれているわけ。アルマイック、シリアック、アラビック、ギリーク、ヘブライ語、ともう一つ、中近東のちっちゃい、スターリンの出国。

ところが今の経典は、イスラムのほうは、マホメット様はアラビアで出たからアラビックしか言わなかったはずだ、と。ところが、その6つの言葉で書かれた経典が結局、イエメンのサーニャテンブルだったのです。そのテキストブックが今ルクセンブルクの大学にあって。で、最初の方はアラビックだけの文字だったけど、エックスレイにかけたら、沢山の言葉があったのです。それで、白く塗ってその後にアラビックだけ書いたわけ。

だから宗教もこういうところであるから、だからお釈迦様は「本を書くな」と言ったのはここにあるわけです。人間がどうしても変えてしまう。アメリカの場合は「法の上に人は無し」と。法が絶対的であると。それをその法を読むのは人間なわけです。

だから今、大闘争が起こっているのは、今までデモクラティックが、最高裁判所の最高判事がマジョリティだったけど、今はリバブリカンのドナルド トランプさんで、それがひっくり返って、逆に6対3になるはずだから。今度、最小の・・・どういう風に見るかは、そのリバブリカン(共和主義者)の見方になってしまう。

差別観によって人は苦の世界へ入って行く

ということで、結局全ては人間のアタの問題。我。で、このアタがどういう風にして発生するかといえば、やっぱり執着。ターナー。で、もう一つ。カルマがどういう風にして延々に私たちがドゥッカの世界に入って行くかといえば、結局、差別観。お釈迦様の菩薩の時ヘイトレイトが、このジャータカに克明に書かれています。

お釈迦様がある時に、カーストってありますね。ブラーミン、クシャトリア、それからフアーマーと、マーチャント、その下の階級。アンタッチャブル非民に生まれたわけです。そういう事をした国が最終的には結局、火山が爆発して、全部崩壊してしまうという事が書かれているわけですね。天界の神が怒って。

その実態として、ナポリ。突然ブワッとして、一瞬にして。そういう事がしょっちゅうあるわけです。その、南米の時空を調べても、火山の下にたくさんの町が埋まっている、と。岩の中に。そういう時空があった、と。だから仏教と、結局、差別観は相反するもので、その時の、そういう差別観を持ったブラーミンは全て消滅しました。その灰の中で。ということをお話しなきゃいけないのだけど、最後。

だから結局、私が瞑想している時に、そのさっきのビジョンが出てきて。それでエチオピアに行って、その木を探しに行ったわけです。で、まるで夢のような話でしょう、そんな。で、こういう木があって。その、覚えていますからね。絵で描いて見せるわけ、鉛筆で。こういう木のあるところを探しているって。「いやーたぶんその木は、そういう山がある木は、結局その、セミマウンテンとそれからオックスンという間の所にあることを私は見た」と言う人に出会って。

それでその後、その牧師さんに出会って。で、大金持ちのツーリストの、非常に素晴らしい宗教を熱心に信じている人が、キリスト教だけど私を大好きになって、言う事が全てピッタピッタと合うから。逆に頭下げて。食事も奢ってくれる。お布施もする。もう、朝4時、自分の自動車を持ってきてバスまで送ってくれるとか。で、帰る時もちゃんと飛行場まで送ってくれる、と。

だってトヨタのランドクルーザーは税金払って1500万円なのですよ。4台持っているから。もう私が話す事によって、もう、もの凄く喜んでしまっただけ。「はあ、そうだそうだ、そうだそうだ」。仏教です。仏教ですよ。全然、差別観無し。

それでその後、じゃあオックスンには寄りたからオックスンという所ね。そこへ行きたかったから。何故そこに行きたかったかと言ったら、結局オベリスクがあるのですよ。オベリスク。そこがどうもその、エジプトの最初に作った所じゃないかという話があるし。



オクッスン エチオピアのオベリスク

奇跡の聖地巡礼「カイラス山」の旅

それでラサあるでしょう？チベット。ポタラ。あの真ん前にオベリスクがあるのですよ。で、あのカイラス山あるでしょ。ラサから入って行くときに、バスで三泊四日でアーリーという町に着き、からそこに1日中、バスに乗って行くわけです。普通は入れないのだけど。私は警察署に旅の者だと。パスポート見せて。それで罰金払って。そして私は罪を

犯したと。で、その代わり1ヶ月の、禁止区域にいても良いという許可証をもらって(笑)。

もちろんそうしなければもし自動的に勝手にやって刑務所に入ったら大変でしょう。だから私が警察署に行って、申し出て、何故ここに来たかダーッと書いて。それで「よし」と。「じゃあ罰金払いなさい」と。

それでここに1ヶ月カイルス山に行くという、そういう情報があるから行けたけれど、普通の人はね、ネパールから上がって行くわけですね。だいたい20日間でそのネパールの旅から出て、カイルス山に行って帰るのに、だいたい1万ドルから2万ドルかかるわけです。100万か200万。それにプラス、アメリカとかそういうところからネパールに行くお金は、飛行機代は入っていないからね。そんなお金は無いしね、私は。安サラーマンだから。



ヒマラヤ山脈

もう、結局ラサから、3泊4日のインターナショナルエクスプレスバスという寝台バスに乗って、3日3晩じゃなく3泊4日ですよ(笑)。でもどうしてもそこに行きたかったのは、結局カイルス山は須弥山というわけですね。須弥山。その上に一切の神の世界がそこに繋がって。

だからそこにもう過去1万年インドから、結局ネパールを通して、結局ラダック。ラダックを通してレイからずーっと上がって来るわけですね。今はカシミヤ戦争でストップされているけど。

で、その所に私のとても尊敬するカシャパ尊者の町があるわけです。昔は身入りが良かったのだと思う。全てのインドの方は、そこに行く事が一生の願いで。その湖で体を洗えば天界に生まれること間違いなし、という事だから。今でも来ていた、インドの方、莫大な金かけて。チベットじゃなくあっちの方から、カトマンズの方からチベットに上がってそのルートで来ていました。

いやー、私も天界に行けるのかなと思って、あの寒い凍りつくような、もう 5000 何百メートルで。それでその時に、3 回水に入って。バプタイズ洗礼式というのはそこから来たわけね。バプタイズ。で、十方の仏に対して私はこれから仏に対して永遠に帰依して小間使いをやりたい、と言ったら、今こんな小間使い(笑)。

そんな高い事は望まなかった。いやー、もうパンツ一丁でブルブル震えながら、冷たい中に。まあ病気ならなくて、よく。そのときはもう一生懸命、求道の道に入っているからね。ずーっと。で、その、何て言うの、夢にまで見たカイラス山に来て、マナローサという湖に来て。まあチベットの方もそこに来るのが最高の願いだからね。

カイラス山というのは大日如来。即大日如来という事なのです。チベットとカブールは直結しているからね。シルクロードで。で、そこになんとあのマナローサのお寺を私がコンコン。交通ではないのよ。何も無いのですよ(笑)。よくまあ 1 日中もう、朝早くね、道路のそばでずーっと待っていて。車が来るのかな、来ないのかな、、、。

来てもそのランドクルーザーで、手上げたって止まらないし。何時間も何時間も。で、突然ね、ダンプトラックが来て、「どこに行くんだ？」って。「近くの 2 時間か 3 時間の町に行きたいんだ」と。「そこからマナローサに行きたい」という事で。「よしよし」と言って乗せて、ダンプトラックの荷台に上がってじーっとしていると、「ここだ」って降ろして。もうそんなですよ。

全くもって、今考えれば無謀中の無謀の旅ばかりで、そこで軍隊に勤めている人が「今、これからプーランに行くんだけどお前どこに行くんだ？」と。「いや、実はこうこうで」と。「よしよし、私が連れて行ってやるから、心配するな」と。で、軍隊の上官だから車を止めて、ホイッ、行くて。「いや、私はプーランに行く前にマナローサのこの水を浴びに行きたい」と言ったら、「よしよし」と。「ここに行きなさい」って。テクテクテクテク。ちゃんとあってね。そしたらお寺があるわけです。

で、お寺があつてね、で、コンコンコーンってやったらお坊さんが出て来て。私がね、ここにお参りに来ていると、手を合わせて。ジェスチャーで。チベット語言えるわけないから。で、シャカムニブッダとかなんかべらべらべらべら言ったのですけど。「よしよしおいで」と。お前に特別な部屋を見せてあげるからと。

で、その奥の洞窟に連れて行かれたわけですね。というのは、そこに行った願いはね、私はカシャパ尊者に会いたかったのです。その存在は、存在はね、カンボジアで手に入れた経典があるわけです。それが南伝の方ではみんな知っているわけです。北伝には書いてないけど、カシャパ尊者は涅槃に入らなかったのですね。

で 500 の阿羅漢を、「これから私が山に入って、弥勒仏陀が来るまではここでじっと待っている」と。で、1950 年代にその写真を撮ったお坊さんがいるわけです。カンボジアからそこに行って。で、その洞窟を探すための目的もあったわけです。

それで中国の若い人が英語を話したら、「お前ちょっとキチガイと違うか？こんなでっかいチベットで、探せるわけないでしょう」と。そんなことを言ってて。「それもそうだなあ」っと思いつつながら。まあ、映画以上の話ですよ。で、コンコンコンと洞窟に入ったらなんと阿弥陀様がおるわけです。その阿弥陀様。私がその神護寺で目隠しして落とした、花を落としたところが阿弥陀様なのですよ。で、よくよくそのパオで見たら、拘留孫仏、カクサンダーブッダと非常に深い関係があったわけですね。賢劫第一仏と。



チベットの寺院

天界の女神に導かれてエチオピアへ

そういう良い因縁に助けられて、それで天界の女神が現れて見せるわけです、情景をサーッと。まず女性が出てきて、その陰に、すぐわかるわけ、これはエチオピアだと。間違いなしと。で木を見せるわけです。瞬間的に。人間みたいにダラダラ言わない。パーンパーンパーン。一瞬にして観せる。

まあカブールに行ってその後、トロントに帰って、もうクタクタになってクティやって、まあ楽しい時間をもらいましたけど。夏一緒に(笑)。それで今度はトロントからエクアド

ルに行く前にその木を探しに行ったわけです。そしてアディスアベバからバスで行って、朝。もう朝4時半から行って山越える時になんと、そういう広大な大地とその谷間と山がワーンと出てくる。あらまあ間違いなしと。こっちの方向だと。



エチオピアの大地

という事でスーッと行って。それで最初に着いた所が大体 17 時間バスに乗って着いたわけですね。ズーンと行って。まあよく体持つこと(笑)。で、ゴンダーと言うのだけれど、日本語ではコンダルと書いてある。カタカナでコンダル。まあそこでちょっと休養して、体休めて。で、栄養たっぷりのものを食べて。

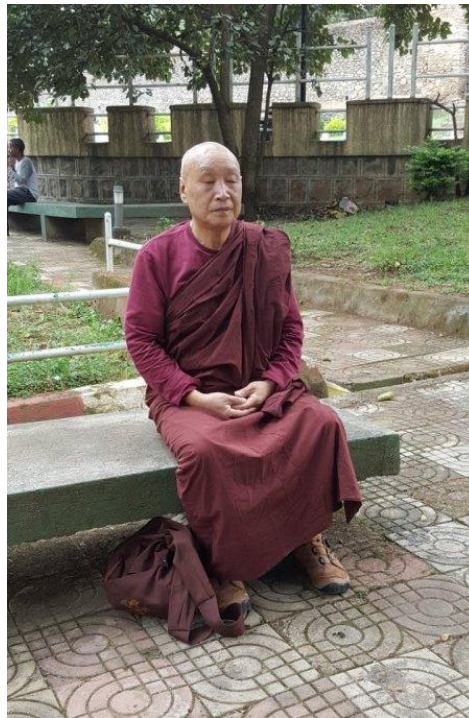
で、今度はそこからオックスンというそのオベリスクの町。そこはまたシバの女王が昔居たという宮殿があったという。シバの女王といえばソロモン王に会うためにエチオピアからイスラエルのソロモンの宮殿を訪ねたわけですね。で、そのときに身籠った子が王子となって、でソロモン王のところに子供が、大きくなって使いに出したわけですね。そのときにソロモン王がエチオピアのシバの女王の王子にアークオブコンベンantというのを渡したという事で。キリスト教界では非常に有名なことなのです。

それが本当かどうかという事で、カンタンベリーアーチビショップ。イギリスのそこに行って。もうドイツ、イタリア、全世界キリスト教は虎視眈々とそのアークオブコンベンantを手に入れたいと多分思っているのだと思う。

ところが、エチオピアはもうセントジョージが結局守護神みたいに守ってね。もうセントジョージといえばエチオピア。セントジョージといえば正キリスト教、正統派キリスト教。

その本部はイスタンブールにあります。今でも。ビザンティン帝国が最高に栄えたときにそれを持って。イスラムが来て今はイスラム、トルコがイスラムになったけど。そういう風にまあ話を戻してゴンダーに行って、それからまた8時間くらいバスに乗ったね。で、オックスンに着いて。それでちょうど良いホテルに出会って。まあ気候の良い所でした。で、そこでゆっくりしながらまずアークオブコンベンナントとか、それからオベリスク見ながら。

で、やっぱりそのお寺があるわけですね。ちょっと高いお金そこで出すのだけど、まあ。そしたらそのお寺の中では、公園の中では、現地の人みんなタダだから。観光客だけお金払う、どこでも一緒です(笑)。で、みんな一生懸命経典を持って勉強しているわけですよ。読んで、瞑想しながら。で、私はどこにそのアークオブコンベンナントがあるか分かるから、ここだという事で。



エチオピアにて瞑想をする水源師

全く異質のエネルギー「アークオブコンベンナント」

もちろん入れないし、近づけないけどここだという事で。ちょうど20メートルくらい離れたところで瞑想していたのですよ。第四定禅で。この瞑想をする力が無ければ、そこに行ってもただ見て帰るだけ。

瞑想の力でその中、一体このアークオブコンベンナントとは何なのかな？と思ったら、びっくり。地球上のものじゃない。地球のものと全く異質の物質を出して、ブッダの教えとは全く違う、全く異質なエネルギーでした。

というのは私が第四定禪を使ったらスーッと入るのだけど、ブロックするからね。で、異空時間も入って行くのだけど、異空時間。その異空時間で見た建物が、私の息子が「お父さん、宇宙人の建物はビクトリアン時代とかアレみんな嘘だ」って。いやいやそう言うのじゃないよって忠告して。何故かと言ったら私がそこに行っていて見ているから。ゴシック建ての建物。何なんだろうと思ったら息子の話を聞いてやっぱりこのアークオブコンベンナントは外宇宙的な力という、それを神と言ったことを私スメリアカルチャーの時に言ったでしょう？

それがちゃんとそこで分かって。で娘がその、「麦の遺伝子は全くこの地球のものとは違う」ということを言っている。話がピタピタって合っていくわけですよ。

水より安いエチオピアの極上なビール

それでエジプトではその昔ね、サラリーというでしょ。サラリー。それは塩のこと、saltから来ている。と、もう一つ、エジプトで仕事をすればビールを何リッターって与えるわけ、ビール。1日働いたら。それが給料なわけです。それをたくさんもらって他の人に分けるか。

だから、そのエチオピアで飲んだ生ビール(笑)。ウワーッ、こういうビールがあるのか！という。これ飲んだらさ、他所の国で働く気無いわ、これで十分。あっちこっちにそのビールの飲み屋があるわけです。

本当はキリスト教でお酒飲んじゃいけないでしょう？それからムスリムも飲んじゃいけないでしょう？だからムスリムの人なんか葉っぱかじるわけです。キリスト教の方はお酒バンバン飲んでた。アルコール、楽しそうに。まあ隠れて飲んでいるかも分かんけど。まあこれが伝説のエジプトのビールかなとすぐ思った。全然味が違う。全然違います。

私がある昔、トロントで会社勤めてね、1週間に1回だけイギリス風のターバンに寄るのですよ。アイリッシュターバンってね、あるでしょ、いろんなビール。もうありとあらゆるビール。やっぱりそのイギリス文化だからね。で、そこであの、チキンウイング頼んで、カウンター座ってほろ酔い気分一杯か二杯。ああ気持ち良いなあって。それで1週間に1回だけ。サラリーマンだからね、そんなに何回も飲んだらきっと怒られます(笑)。でもそれくらいは良いでしょうと。遊ぶわけじゃないし。あとは図書館に行って勉強するくらいが私の趣味だから。なぜかといったらお金かからないから、図書館とかはタダからです(笑)。まあそういう事で、だからいろんなビールの味は知っているわけです。ブラックダイヤモンドという真っ黒いビールがあつてね。それが大好きで。まあ高いのですよ、

それがまた。1杯。何とそのエチオピアで飲んだそのビール、水より安い。ボトルウォーターより安くてそれ以上のもの。だからそのお釈迦様が「お酒飲んでも良い」って言ったら私エチオピアで一生暮らしているかも(笑)。



水源師と回教徒のエチオピアの市民

まあそういう風なね、全てが悪いというわけではないのですよ、貧乏な国でも。何か素晴らしいものがあるわけです。

旅すればわかる世界の不思議《現代でも出来ない精巧な石の切り方 etc.》

今度、王様のお墓というところ、テクテクテクテク歩いてそこに言ったわけです。タクシー乗ったらお金ボラれるから。2キロか3キロ歩いて行ってみたら、なんと、3000年前かなんかの建物のその地下のお墓という建物の中が、現代でも作れないくらい精巧に出来ている。石の切り方から。

で私はクスコ・ペルーも行っているから。その石を合わせあるでしょ。それ以上のテクニックで作っている。だから私たちはほとんど何にも知らないで死んでいきますよ。本当に何も知らないで死んでいきます。スリランカには、言わなかったけど不思議な不思議なね、ココナッツがあるのですよ。たった二本だけ。

そのココナッツを飲めば、全ての難病が治るというココナッツ。そのお坊さんがこの木は私ともう一本、2つしかないという。で、このお寺には超難病になった人に捧げます、

と。で、その後で、まあダーナもらったりするのだけれどね。非常に素晴らしいお坊さんで、ミャンマー系のお坊さんです。スリランカには 1700 年代にポルトガルに占領され植民地化されたとき、一旦こういうしきたりが壊れたのです。残ったのはタイとミャンマー。それでもう一回逆輸入して今のスリランカがある。

という事で、でも経典ちゃんと残って石ますからね。で秘法も隠れながら残っている。密教の最たる密教もちゃんと残っています。でもその経典をもらってもね、私その、する時間も無いし。そのやる、年齢も年齢だから、経典手に入るのだけど、わざと放っておいている。いつでも手に入るのだけど、それを持ってまたやったら私 200 まで生きなきゃ終了しないですよ(笑)。

まあそれを持ったって、日本で役立つかどうか。だってここまでガーッとやっているのだから、それはそれで良いし。ま、それはそれとして。それでエチオピアに行って、それでまたテクテクと帰ってくるときに、そのセミアウンテンのところに行って、そのあたりの山ということでそこに泊まって。まあ一晚 50 ドルというロッジがあるわけですね。エチオピアでは 50 ドル、超大金ですよ。



水源師とエチオピアの子供達

でまあ契約して、山へ入って行く。なぜか行ったら軍人が一人付くわけ。鉄砲、猟銃、ライフル持って。それがしきたりなのかなんなのか知らないけど。それでそこに行つて、まあ4000メートルからテクテク上がったり下りたり、上がったり下りたりで、そのロッジという所、50ドル出すから凄い所だろうなあと思つたら、なんとトイレは無いし、トイレはめちゃくちゃ汚いし、トイレ入れないし、寝る所と言ったらちっちゃいその、コンクリートの家にちょっとムシロ敷いたベッドだつて。「えー?!これ?!」まあそんなんです。

私はまだ一晩でそうだけれど、ドイツの人は3日かそこらで300ドル払って、USドルでもう。それで私は水を持っているからその方に分けて、水も何倍って取るらしい。でカンカンに怒っていた。カンカンに(笑)。名前はロッジだから、いやあ良いんだろうなあ(笑)。で食事が出ないと。私、いやこんな所で食事が出ない、ってカンカンに怒り始めたら、よしよし食事は作るからって食事くれて。夜の食事と朝。

願解如来真実義～タサを体得

で、見て。それでやっぱり、あら、この木だなという所で昼食する前にその木の下で瞑想したのです。まあ気持ち良いなあ。で滅多に飛んでこない野鳥が目の前にポコポコポコ遊びに来て。それでその後、ホテルに戻って、そしたら観せてくれたのですよ。願解如来真実義の如来。タッサ。ハー、これがタサか。分かった。

で、お釈迦様がこう言ったわけです。そのタサを体得したときに。悟りを開いたときにタサを得たわけじゃ無いのですよ。それからズーッと歩いて、歩いて説法しながら、ある湖の前で山を見ながら、人間は奇跡を持っている。奇跡とは空中を飛ぶ事ではない。水の上を歩く事でもない。この2本足をもってどこにでも行けるという、これが奇跡である、と。

そんな苦勞して寒い所でまた、3000メートルか。で、この2本足で歩いて、この老体で。いやあ、奇跡的に生き延びて、やっぱり奇跡で。はあ、タッサ。ナモータッサ。もう、そういう体験。という、全部繋がっているわけです。だからその、文字でいくら勉強してもそれは不可能なこと。で、こう修行しても、その場所にいたら不可能な事。

だから雨季の時だけ、お釈迦様は居たけど、あとは全てのお坊さんは3日、人の所に居なかったわけです。昔はお坊さんがどんどん増えたら村が困るでしょう?だから絶えず、動き回って旅行して、その時に、いろんなお話をし、それから行法をちょっと教えながら。

それで、丁度、キリスト様がインドに居た時、イッシャーという名前でオールマイティ、全能の神という名前を受けてムンバイで、お寺で修行して、その後ラダックに行ったわけですね。

という事を今、インド政府で発表して、BBC でもそのことを取り上げている。だから実はキリスト様もお坊さんなのです。比丘なのです。でその、比丘でありながら、マグダレーンのマリアが奥さんで、結局チベットでは良いわけなのです。チベット仏教では。

その、ラマというのは菩薩行をやる僧という事で。ところが普通の大乗でもテラワダでも、奥さんをもらっちゃいけないと。で、奥さんをもらって結婚した場合には一緒に部屋で寝てはいけないという掟があるわけです。

まあそういう事で。旦那さん修行するでしょう？で衣を持って奥さんが待っているわけです、ちゃんと。帰って来ました、嬉しい嬉しいって、連れて行くわけ、家に。

まあそういう事で。結局、願解如来真実義の願解という、タッサ。これが非常に大切な所で。それは幾ら頭で考えても、幾ら修行してもそれは分かるかどうか分からない。ただ私はそのお釈迦様のそういう話を聞いたもので、あ、このために呼ばれたのだ、という事が分かった。

オベリスク

で、オベリスクね、オベリスク。マウントカイラス。その山へ入るときにもうちょうどオベリスクみたいな巨大なオベリスクみたいなのです。で中国のチベットの偉い先生に聞いたわけです。その、なんでラサの前にはこのオベリスクがあるのですか、と。いや、これは宝刀だ、と。宝刀。宝の刀。トウというのはタワーじゃない。刀。全てを破壊する刀という事が中国の伝説、最高の伝説の刀はオベリスクの形をしている。ああ、なるほど。それまで何故これが宝刀かという事が分からなかった。

だからその宝刀がちょうどこのオベリスクみたいに長くてね。どんな刀で来てもパーンてやったらパラパラって崩れてしまう。という、まあ外宇宙的なテクノロジーで出来ていたのかも分からないし、物質があるし、そのつまり全ての物質はエレクトロマグネティックの関係だから、物質と物質は絶対にくっつきません。結局エレメントの周りにエレクトロン回っているでしょう？だからこうして触っても絶対にこの物質と手は繋がっていません。必ずエレクトロンで反射されて、その強さによって感覚というのが分かる。じゃなければピターッとくっついてしまう。ペタペタペタペタってもう動けなくなる。ちょうど氷に舌をつけるでしょう？寒いとき。舌がくっついて取れないのだから。そうになってしまう。

まあ、えーっと、それでそういう体験をして、で、その後、そのセントジョージと呼ばれるウーラ・ラリベラと呼ばれる非常に有名です。十字の建物。十字で出来た非常に巨大な、石を切った。それはラリベラというお坊さんと神によって作られたというところ。やっぱりその宗教的なことだからどうしてもそこに行ってみたいわけですね。

ラリベラ岩窟教会群の秘密

で、オックスンからセミマウンテン見ながら、今度はそのタナ湖というのがあります。レイクターナー。非常に大きな湖で、これがブルーナイルの源流で、上流にあります。ブルーナイルの。で、そこから今度はラリベラを目指してバスに乗って。それで若いガイドを連れて、行ってもらって、それも値切って、値切って、安い値段でホテルへ泊まって。で、その寺院を見学するのに米ドルでまた50ドル(笑)。いや、その国で、日本では5000円とか、それでも高いのじゃない？ 拝観料。

で、そこに入って行ったわけです。で、やっぱりあの、その神の作った建物というのは昔で言えば、ガイガ・Giga、十字、丸の十字。丸に十字。薩摩。だから薩摩もこれは面白いのです。非常に面白い。何故丸に十の字を作ったか。非常に興味のある所。



ラリベラの岩窟教会群

だから英国がそこに入って、薩摩と長州にアームストロング砲とそれからアメリカのウィンチェスターやったら徳川が滅んだでしょう。だから、まあそれは余談になるから別として。

それで、その所に行ってみたら、巨大な、人間一人で作れるわけない、本当に神か。伝説によればエンジェルが降りて来て一晩で作ったと。まあ宇宙人が降りて来て作

ったかそれは別として。それで私がちょうど、どうしても理工系だから、そのメジャメントを持って、巻尺で測るわけですよ。で測って見たら、なんと全て USA インチ。

その伝説によれば 1700 年前か 1600 年前に出来た建物が USA インチで全てピタピタと合った。そのナンバーが、面白い事にチベットの極秘のナンバーが全部そこに入っている。密教の。

で、バチカンがチベットに送ったのは結局徳川幕府 1600 年。3 年前だからね。徳川幕府が 1603 年に開闢。その前にチベットに送って 40 年。で 40 年後にまた行って、1647 年にチベット大蔵経をバチカンに持って行ったから。で、なんと。ウーラ・ラリベラのその建物、写真撮ってありますけど、卍。ブッダの卍。ハーハー！ハッハッハッハ(笑)。で、内容を見たのですよ。ヤンタラ。それで全部卍の模様で出来ている。



ラリベラ岩窟教会の卍の窓

チベット密教の極意のナンバーが入っている

で、いやもう、底が知れないよ。だからアメリカは宇宙ロケットとか飛行機、絶対にフィートインチを変えない。それで作り上げる。それをミリメートルとか、センチでやったら、狂うわけです。実際にそれでロケットを落としてしまったから。そういうデータがあるわけです。

日本はまた別。日本はミリメートルでやっていると思うけど。で、アメリカからも渡された設計図は全部外だけのロケットの形、全部中身無し。ゼロゼロゼロ(笑)。結局権利を買っただけで、自分で開発しなきゃいけない。

で、日本には天才的な方がいて、筑波大学の方だったかな。追跡できる力があるわけです。それでどこに落ちたかという。それで何故落ちたかというその原因を見たら結局設計図通りにやってロケットが失敗するようになっている。それが分かった。

まあ、話を戻すけれど、インチなわけ。インチフィートで出来ている。それで切り方はね、人間では切れない、ちょうどマチュピチュあるでしょ。クスコの石の切り方に非常に似ていたけど、それよりもちょっと進化した切り方。

だから私がこう、あっちこっち行っているから分かるけど、本だけ見てあーだこーだでお話にならない。で、このアメリカンインチが世界的に公認されたのは、1959年。それがそのウーラ・ラリベラのその建物、チベット密教の極意のナンバーがそこに入っている。それ自体もおかしいし。八正道の8インチもピタピタと全部入っているし、その入り口に。で、卍が描かれているし。外から見れば。内から見たら逆卍。だからその、まあ、捕らわれたら心が進化していかないから。

執着、差別の心が最大の障害

だから私はフリーに、宇宙人の事とかスメリアカルチャーとか発表したでしょう？だからこうして見せてくれるけど。もしそれでこーだあーだと言ったら、結局日本仏教という事になって、お釈迦様の居ない教えの仏教という事は仏教じゃないという事。

だからみんな病気になってしまう。で、特に、修行する上で、涅槃に達する上での修行の一番の最大のカルマの問題は、その執着。ターナー。プラス、結局ヘイトレイト。差別。で、これでカルマが絶対消えないようになっている。

だから人間はね、そのお釈迦様がその昔、黄金の鹿だった時に、「人間はどうせ最初和気藹々とやっているけど、そのうち必ず、罵倒し合いながら、結局優越感ですね。で、喧嘩して別れる」と。「私が偉い。お前はバカ」と。

結局、カースト制でしょう。で、インドでもこのカースト制に反対してジャイナ教が発生して、ヴェーダは、これは間違っているという事でジャイナ教。今でも強烈でしょう？お釈迦様もこれは確におかしい、という事で全ての方に仏教を教えたわけです。本当のヴェーダ。教え。で、シークもブラーミンの教えはおかしいという事で。

まあ全てはヒンドゥー。ヒンドゥーという教えは、シーク、ジャイナ、ブuddhイズム、ブラフミンのヴェーダ。4つ、これ全部ひっくるめてヒンズー教。だから仏教もこのヒンドゥーイズムに入ります。で、最高を極めたのはお釈迦様、最高と言っちゃいけないのだけど。結局クリエイターみたいな感じになるから。

クリエイター思想の弊害

で、日本ではお釈迦様を外して自分がブッダみたいな大僧正になって、クリエイターになるわけです。パラアッタということが出来てしまう。拝んで、先生先生って。だからゴエンカさんは絶対に私を飾るなど。私の死んだ後。絶対に私が死んだら私の前で金の像を作ってみんな踊りやるだろうって(笑)。

結局、ゴエンカさんも徹底的に仏教を勉強して、やっぱり南伝だからお釈迦様の話をよく聞いているわけです。全く彼の教えとは反する事をやるけれど。

西洋はね、やっぱりそのアッタの、一神教のクリエイターになっていくから、どうしても幾らその仏教の教えをやっても、そこで2000年どっぷり浸かってしまっているから非常に難しい。私がこうやってなんとか、なんかこう、赤子を揺らしながら導くけど、もうキツく教えたらとんでもない。出来るわけないし。

結局、欧米が植民地政策で、クリエイターの名によってやっているものだから、植民地政策で。それを日本が真似たことに大変な大失敗があります。ただ、ご先祖様が仏教をここまで守った、その力があるから、今なんとか持っているけど。だから最後の天皇陛下のお言葉を聞けば非常に心配しているというのは、この問題だと思います。

結局私がカブールで、あなたは先祖のことを完全に信じないで壊して、これは天罰を受けるよっていうことを言ったわけです。結局、今、この日本でえらい僧正さんの和尚様たちが築き上げた、その最高の問題はアッタ、パラアッタ。ここに入っているわけなんです。

というのは、西洋の考えはドンドン入れて、知らず知らずのうちに、ここに入ってしまったから。結局学校のいじめとか、会社のセクハラとか、ここに入ってきます。だから私がちっちゃい時は、もう隣近所仲良くして、お米とか譲り合いました。今みんなもう疑い。「あれ泥棒」と。おかしくなっている。

結局、最大の間違いというか、人間のカルマが永遠に続いて、悪い方向に行くというのは、結局その、ヘイトレイト、ジェラシー。これが全部その優越感。カースト。でお釈迦様はこれ絶対的に無くそうとして、革命的だったわけですね。

で、そのブラーミン(婆羅門)たちは徹底的に彼に反対するわけです。だから今でもブラーミンとかそういう話を聞けば、仏教を曲げて話すわけです。実際に事と外れて。で、そっちの方を西洋の人は信じてしまうから、だからアメリカのヴァージニアから来た人だったかな、ヴァージニアから来た、その、マレーシアで会ったけど。40年、そのアメリカ人が比丘をやって、瞑想もやるというけども、結局そのクリエイター思想にどっぷり浸かっているから、通過できないわけですよ。

で、私が一言ポーンと言ったらもう顔が青くなってしまう。経典は読んでいるけど、ポイントを、私たちの場合、問答は一言二言だから。一言二言。長いことやらない。真

剣勝負です。刀以上の真剣勝負。間違いを起こしたら永遠にそのカルマが続くから。という事で、真剣勝負で切った殺されたはそれで終わるのだけれど、このダンマの真剣勝負は間違った事をやったら、永遠に続いて行くからね。それは大変な事です。

だから、もう命はそこで落としても良いという、絶対的な自分の体得したことで話して、もし間違ったら私は頭を下げます。ありがとうございます。それが正式のダンマの問答です。ま、そういう今何時ですか。

【司会者】

8 時 53 分

ウデナ王の話・エローラアジャンタでの不思議な瞑想

ジャータカ物語は明日、話しますけど、お釈迦様の実際に起こった事の話です。これがまた長いのですよ。ストーリーが。お釈迦様が祇園精舎でね、居た時に、その時の王様はウデナという方で、ピンドラバラバジャというエルダーですね。その町の公園があるわけです。ウデナ王の公園があつて。そこでいつも夕涼みに行って、お布施を受けているわけです。

そのとき王様もスーッとやってきて、その遊女たちと一緒に。こう、お酒飲んで、遊んで。王様がコロッと寝て、遊女の膝の上で寝ている時に、その遊女がちょっと見て、起きたわけです。そしたら周りに音楽を奏でる人も誰も居なくなっちゃって。で、どこにいるかと見たら聖の、エルダーのバンテイの所に、ずっと話を聞いているわけです。

いつの世でもインドではそういう話が大好きなのです。そういう聖とか、宗教を求める人。ちょっと話それますが、私がある前、エローラアジャンタの弥勒菩薩の巨大な寺院、石を掘った。それは宇宙人が作ったので、じゃないかというくらい精巧に、削り間違ったら石の洞窟寺院、出来ないですからね。で、そこで私が瞑想していたわけです。

石の上ですからね、結跏でやらなければ。半跏でも痛くてできない。だから結跏がそういう時に非常に有効です。柔らかい所だから、全部当たる所が。そしたら、おつと見たら、全部白い服を着たインドの方がじーっと一緒に瞑想をしている。私を取り囲んで、ずーっと。

弥勒菩薩の場合は、二人の菩薩がいます。観音様と金剛薩埵。2 つです。で、ここでチベット仏教のグルリンポチェの存在が浮き上がってくるわけです。この経典がボーダーで、今から 300 年前か 400 年前に発見されて、この経典は 1000 年先じゃなきゃ使えないと。

今のこの人間の思想じゃ、とてもじゃないけど危ない、という事で。それはチベットのあのお坊さんが瞑想していたわけです。そしたら白いライオンが夢に出て来て、でその上に飛び乗って、行ったらボーダー・カトマンズに着いた。

で、ボーダーの東側の所でお知らせがあつて、それで、その人が逆に遠い所からテクテクテクとチベットからカトマンズに歩いてきて、大変な旅行なのですよ。ヒマラヤを越えて行くのは。私はバスでラサからカトマンズに行ったけど、この世にもない凄い情景もあります。

いやー、こういうまあ、写真でも見た事無いような、エンジェルフォールという、どこだったかな、ベネズエラのジャングルの奥の中にあるけど。そこをそのもう絶壁の細い道をバスがスーッと通って行くわけですね。景色はまあすごい。落ちたらおしまい(笑)。

まあそういう風に、バスで行ってもそうなのに、このお坊さんはラサじゃなくもっと山奥からテクテク行くわけですね、訪ねて。で、それを探し当てる。だからそのボーダーは、ただのボーダーじゃないわけです。だからチベットのお坊さんが朝から晩までぐるぐるぐるぐる。私もじーっとその、いつもその近くのチベットのホテルに入って、で必ずグルグルグルグル回って。

でも 30 年くらい待ったからね。会社にじーっと勤めて。時間あつて今度グルグルグルグルと回って、それでもうカシミヤからラダックのレイに上がっていく時、やっぱり2、3日前にバスが崖から落ちて 40 人死んだとか(笑)。そんな話ばかりです。

でも、いつでもなんとか切り抜けて、なんとか切り抜けて、その、大漫遊記、大漫遊の旅を続けてきているけれど。

まあ、結局さっき言った、ウデナというキングが怒ってしまって、で、このバンテイに、ピンダラバンテイに、その、アリがいっぱい入ったバスケットをボーンと投げたわけです。で、前もやったと他のバンテイもいて、「お釈迦様、これはどうしてですか？」という事でお話が始まるわけです。

【水源師】

今何時？

【司会者】

9 時です。

【水源師】

そうでしょう。これ以上やったら瞑想どころの話じゃないから。バランスを取りながら、いくら楽しい話でも。じゃ、また明日(笑)。もうすぐ時間経ってしまうから、すみませんね。話が遅いのか、つい逸れるのか。でもこういう話をしていかなければね、本題が外れてしまって、もう砂を噛むような話になってしまうから。



ゴンドール エチオピア

水源禅師法話集 114

(2019 年 5 月 4 日 山梨法話会 8 日目)

2019 年 7 月 13 日発行

編集兼発行 一乗禅の会

